

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	12	学校名	静岡県立三島北高等学校	校長名	松下 明子
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立と心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守るように心がけている生徒 95%以上※ ・整備委員会による環境美化週間の実施 各学期1回 ・生徒による生活キャンペーンの実施 各学期1回 ・挨拶をしっかりとできるよう心掛けている生徒 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(生徒:A)時間を守るよう に心がけている生徒は 98% ・(保健:A)環境美化週間を 毎学期実施した。 ・あいさつ運動として各学 期1回ずつ実施した。 ・日頃から挨拶を心掛けて いると回答した生徒 93% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 1.3%上昇した。 概ね生徒は時間を守ることが できている。 ・授業の開始時間は守れてい るが、朝読書の時間などは守 れない生徒がいる。 ・清掃用具の整備及びカーテ ンの管理を行うことができ た。次年度以降も継続して実 施していきたい。 ・挨拶運動を通し、服装や身 なりの指導の徹底ができた。 一部、何度も注意を受ける生 徒がいた。 ・ほとんどの生徒が挨拶を心 掛けていた。自発的に挨拶が できる生徒を増やしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行 月1回 ・健康観察アプリの活 用率 90%以上 ・信頼できる先生がい る生徒 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(保健:A) 月1回以上保 健だよりを発行するこ とができた。 ・健康観察アプリを利用し ていると回答した生徒 51% ・健康観察アプリの活用 は、行事实施前や感染症発 生時のみの活用に運用を 変更した。 ・(全体:B) 教員を信頼で きている生徒 87%。 1年2年3年相談室(BACA) 		<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員が生徒の健康課題 である睡眠について研究を実 施し啓発活動を行った。次年 度以降も継続して研究を実施 したい。 ・健康観察実施により、感染 拡大防止の対応ができた。ICT による健康観察実施により休 日の状況も把握できたが回答 率を上げることが課題。 ・今後も時間をかけ、生徒と の人間関係を構築していく。 ・カウンセリング希望者には ほぼ100%実施できた。 ・昼休みの教育相談室開室は ほぼ100% ・月1回の教育相談室連絡会 議から、カウンセリングやケ ース会議に繋げることができ た。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事に熱心に取り組んでいる生徒 95%以上※ ・図書年間貸出数（4～12月集計）2000冊以上 ・生徒の満足度 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体:A）部活動や学校行事に熱心に取り組んでいると回答した生徒 95%だった。 ・（図書:A）図書年間貸出数昨年度比 1.01 上昇 ・図書館年間貸出 2020 冊 ・（図書:A）芸術鑑賞教室の満足度 99%超 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において前向きに取り組んでいる生徒が多かった。学校行事においてはより一層充実した内容の検討が必要。 ・次年度も取組を継続 ・生徒の興味関心、進路等も考慮し演目を精選していく。
イ	<p>確かな学力と幅広い教養の育成に資する学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深める工夫をしている授業 90%以上※ ・主体的な活動や生徒同士の対話がある授業 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・（各教科:A）理解を深める工夫をしている 94% ・（各教科:A）主体的な活動や生徒同士の対話がある授業と答えた生徒 92% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の授業内容を工夫し、言語活動の導入に努めたが今後もさらなる授業改善を続けていく。（国語） ・思考力を伴う問いの設定やICTを活用した資料の提示を通して、生徒の理解を深める工夫を行った。 ・反転授業を取り入れることで、家庭学習の習慣化を図ることが課題である。（地歴公民） ・家庭学習の充実を図るために、インターネットの活用も含め課題の提示方法を研究していきたい。（数学） ・主体的な活動では、情報端末やICTの活用を始め、授業の効率化を図りながら、主体的な活動の時間を確保した。反転授業を取り入れることで、家庭学習の習慣化を試みた。（理科） ・昨年度の共修では種目によりやりにくい場面が多かったが、男女別に戻したことで改善でき内容も個に即した授業展開がしやすく、対話の多い授業ができた。3クラス同時展開は、施設的に無理がある。（保健体育） ・家庭学習への意識が低いいため、その意識を向上させられるよう、課題設定の工夫をしていきたい。（情報） ・生徒の主体性向上の観点では、授業ごとにペア・グループでのアクティビティを基調とした指導を行った。

		<p>・家庭学習時間平日平均 120 分以上※ 休日平均 200 分以上※</p>	<p>・(情報:B)1 人 1 台端末について、端末の貸出やネットワーク環境の保全などを適切に行い、授業で活用できる環境を整えることができた。</p> <p>・(教務:A)平日平均は 157 分(1 年:121 分、2 年:83 分、3 年:273 分)、休日平均は 263 分(1 年:196 分、2 年:148 分、3 年:460 分)</p>	<p>・アンケート結果より、家庭学習に対する意欲に個人差が見られる。そのため、毎授業での課題提示や明確な課題の指示を再度意識的に行っていくことが必要だと考える。</p> <p>(英語)</p> <p>・各種端末の経年劣化に伴い、適切に再整備していきたい。</p> <p>(情報室)</p> <p>・学校全体で見ると目標値を超えている。2 年生は、目標値を超えていないものの、修学旅行後より切り替え指導を行っており、今後に期待が持てる。</p> <p>・家庭学習時間は目標値を達成した。一方で、家庭学習の中心として自主的な学習よりも学校から課された課題がわずかに上回り、特に低学年において、自発的な学習姿勢の涵養が課題である。(教務課)</p>
	<p>・校内研修の実施 年 3 回以上(「学びの基礎診断」の結果分析を含む)</p> <p>・授業参観を年 2 回実施</p>	<p>・(研修:A)校内研修として、定期訪問研修、自動採点に関する研修、支援の必要な生徒の事態に関する研修、「学びの基礎診断」研修を行った。</p> <p>・相互授業参観強化月間を 6 月と 11・12 月に実施した。</p> <p>・(地歴公民:A)研究授業を通じた授業参観を実施</p> <p>・(理科:B)授業参観時と同科目内の参観を行った。</p> <p>・(保健体育:B)授業の相</p>	<p>・多様な研修を適切なタイミングで実施することができた。</p> <p>(研修課)</p> <p>・相互授業参観強化月間での、自分の教科見学数は延べ 54、他教科見学数は延べ 23。教科横断的指導の推進の観点から、他教科の見学を呼びかけ、促進を図りたい。(研修課)</p> <p>・思考ツールを活用した授業を実施(参観)し、思考ツールを取り入れた授業の研究を進めた。(地歴公民)</p> <p>・実験では ICT 活用はもちろん、実習助手指導の下、ユニバーサルデザインも取り入れられ、より安全な実施が出来た。(理科)</p> <p>・男女共修の取り入れ方につ</p>	

様式第3号

			<p>互参観、情報交換を密にしていることで授業実践も円滑に行われている。</p> <p>・(英語:A) 学年部での自主的な授業参観を実施。</p>		<p>いても研究をする必要はある。(保健体育)</p> <p>・学年内で自主的な授業参観を実施した。形式の違うアクティビティや、指導のポイントなどを互いに確認しあい、指導能力の向上に努めた。(英語)</p>
ウ	<p>高い志と自立の精神に基づく自己実現を支援する進路指導</p>	<p>・将来に対する明確な夢や目標を持っている3年生 70%以上※</p> <p>・学校は適切に進路情報を提供していると思う生徒 80%以上※</p>	<p>・(全体:B) 将来に対する明確な夢や目標を持っていると回答した3年生は80%、学校は適切に進路情報を提供していると思うと回答した生徒は88%</p>	A	<p>・1・2年次の進路啓発事業を通じた情報提供が、3年次の「将来に対する明確な目標を持つ」ことにつながっているが、「適切に進路情報を提供していると思う」3年生の割合はやや低いため、3年生対象の進路情報の提供方法を工夫する必要がある。(進路課)</p> <p>・適切な情報提供ができてはいる。引き続き、情報提供していきたい。(1年部)</p>
		<p>・進路実現に向けて努力している生徒 70%以上※</p>	<p>・(進路:B)進路実現に向けて努力していると回答した生徒は78%</p> <p>・土曜講座や放課後講座の受講の促進図った</p> <p>・各学年部、各教科で土曜講座や放課後講座の質の向上を図った。</p> <p>・講習の受講率向上に向け、講義内容や使用教材の精査を行った。</p>		<p>・進路実現に向けて1・2年からの継続的な取り組みが求められる。2年生を対象に実施した土曜講座に関するアンケート結果を踏まえ、講座内容や担当教員等改善を進める。(進路課)</p> <p>・進路情報は入ってきて、それを自分の努力につなげられない。意識付けを図りたい。(1年部)</p> <p>・3学期においても、進路面談を実施。来年度へ向けて意識の向上をねらう。(2年部)</p> <p>・ほぼすべての生徒が努力しており、当初の目標を達成できている。(3年部)</p> <p>・講習に参加した生徒については、高い目標を持って取り組む様子が見られた。(国語)</p> <p>・土曜講座の受講人数を増やし、学力向上を図りたい。(地歴公民)</p> <p>・土曜講座については、平常授業との差別化を図りつつ更に内容の精査に取り組んでいきたい。(数学)</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・過去問の研究を行い、幅広い生徒により良い問を提供できるようにしたい。(理科) ・講習時に使用した教材も普段とは異なった実戦形式のものを採用し、講習ならではのより高次の知識について指導することができた。一方で2年部では講習全般の受講率が例年より低く、多様なニーズに応えた上での開講が実現できるよう改善していく必要がある。(英語)
エ	<p>課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、国際感覚等を備えた人材を育成するための探究的な学び・協働的な学びの深化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が論理的思考力等を高めることにつながっていると答える生徒 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(全体:B)「授業に論理的思考力を高める工夫が感じられる」と回答した生徒は85%でわずかに目標値より低かったが、昨年度の79%より上昇した。 ・STEAM for SDGs に理科全体で取り組んだ。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より6.2%上昇した。目標値に届いてはいないが、2年3年ともに、昨年度より上昇している。一定の成果が出ていると判断できる。(教務課) ・昨年度よりも「授業に論理的思考力を高める工夫が感じられる」のポイントが上がったのは、観点別評価に基づく指導が各教科で定着してきている。(研修課) ・論理的思考力を高めることができる授業を構築できるようにさらに授業研究を進めていく。(国語) ・問い立てを多く行うことで、論理的思考力が高まった。 ・情報端末を活用したグループ活動を通して表現力が高まった。 ・論理的思考力の向上につながる問いの設定が明確化できていない授業があった。(地歴公民) ・生徒の論理的思考力については、ALTやネイティブ教員によるディベート、ディスカッションの授業などを中心に育成に努めた。また定期考査では、エッセイ形式のライティング試験を実施することで、自身の意見を根拠とともに述べるための練習を行うことができた。(英語)

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・英語力や国際性が高まったと考える保護者の割合 60%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(研修課:B)「本校での学習活動や行事への参加などを通じて、英語力や国際性が高まった」と回答した生徒は80%であった。 ・(英語:A) 夏季休暇期間における TOEIC 向けの講座の開講 ・ALT による外部検定試験指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・(研修課) 4年ぶりに実施したシンガポール修学旅行の他、英語速読・聴解の極意講座、国際人道家による講話、オーストラリア研修(Global Expedition)など、希望者向けの多様な機会を提供した。 (研修課) ・ALT による授業で、異文化や異国の風習などを英語で学ぶ機会を提供した。(英語)
オ	家庭や地域等との連携を基盤とした信頼される学校づくり・開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・入学させて良かったと答える保護者 80%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(全体:A) 入学させて良かったと回答した保護者は96% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職業別講座の内容については検討が必要。(総務課)
		<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学の参加中学生 1000人以上 ・情報発信に熱心であると答える保護者 70%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(教務:A) ・一日体験入学に参加した中学生は1086人 ・(情報室:A) 学校HPのシステム変更に伴い、より多くの情報発信ができるように構成を検討したり、Instagram を用いて日常の様子を積極的に情報発信したりしたことで、情報発信に熱心であると回答した保護者 89% 		<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学、オープンスクールともに、多くの中学生が参加してくれた。(教務課) ・職員に対し、より多くの情報を公開できるよう、研修等を通じて促していきたい。(情報室)
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の課題に対し意識が高まった生徒 60%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(総務課:B) 地域や社会の課題に対する意識が高まったと回答した生徒は40%であった。 ・三島サンバ等地域の行事に参加した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・意識を高めさせる前に、どのような行事や活動があるのかを生徒に知らせることが必要なかもしれない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の協議会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・(管理職:B)年3回開催した。 (第1回は書面開催 第2回11月 第3回2月) 		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は委員の方には探究学習の発表の場を見学していただき御意見・御感想をいただいた。 ・本校の魅力を高めるためにどのようなことができるのか、それぞれのお立場から意見をいただいた。一緒に行える教育活動についても検討していきたい。(管理職)
カ	安全・安心な学校につながる学習環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケート年3回実施 ・体罰に関する指導案件なし ・SNS 関連トラブル数前年比減 	<ul style="list-style-type: none"> ・(生徒課:A)いじめアンケートは9月2月に実施。担任との面談でいじめの有無についても確認した。 ・体罰に関する指導案件0。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は各学期1回ずついじめに関するアンケートを実施していく予定。(生徒課)

様式第3号

			<ul style="list-style-type: none"> ・(相談室:B) SNS 関連の大きなトラブルはなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・SNS 関連の小さなトラブルに関しては担任や部顧問などが迅速に対応、指導したため大きくならなかった。(生徒課) ・SNS を使用するときの注意についての標語を掲載した相談室だよりの発行により、SNS トラブル予防の発信を行った。(相談室)
		<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策がしっかりとできていると答える保護者 60%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(総務課:B) 安全対策ができていると答えた保護者 80% 		<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高めるための工夫が更に必要である。(総務課)
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数 前年比減 ・AED講習会等の実施 ・ニーズに即した予算の執行 	<ul style="list-style-type: none"> ・(生徒:A) 交通事故件数は4件であった。(すべて自転車) 前年度4件 ・(保健:A) 教職員全員にAED講習会を実施した。 ・(事務部:B) 施設の点検を週1回以上実施し、ニーズにできる限り即した予算を適切に執行し学習環境を整備した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事故件数は例年並みだったが、外部から本校生徒の交通マナーについての通報が複数あった。より一層、交通安全意識の啓発に努めたい。 ・緊急時を想定した講習会を実施できている。災害時を想定した訓練の実施も実施していきたい。(保健課) ・限られた予算の中、計画的な整備が不可欠である。(事務部)
キ	コンプライアンスの徹底と学校における働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の不祥事なし ・監査における指摘事項なし ・時間外勤務時間の減少 ・夏季休暇取得率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・(管理職:B) 職員会議後に毎回不祥事根絶研修を行った。長期休業中には県教委が作成したコンプライアンス動画を視聴した。 ・(事務部:B) 監査における指摘事項は無かった。 ・(管理職:B) 定時退勤日や最終退庁時刻を設定した。誰がその日の定時退勤なのかわかるように掲示板等で伝えた。 ・(管理職:B) 夏期休暇の取得率は100%で達成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事根絶研修がマンネリ化しないような工夫が必要。自分事としてとらえられるような取組を検討したい。 ・今年度はグループワークの時間が取れなかった。風通しの良い職場づくりのためお互いの考えが聞けるような機会を設けたい。(管理職) ・今後も適正な事務処理を継続する。(事務部) ・日々の勤務時間に対して意識できるよう勤務時間管理システムの入力を促した。前年の時間外の時間が表示されるのでその時間を下回るような声掛けを行った。(管理職) ・業務改善アンケートを全職員に対して実施した。具体的な提案に対し、各担当分掌においてできるところから検討を行っていく。(管理職)